

私は昨年、機会があつて「自然保護（環境保全）と理科教育」について仕事をしました。この仕事を通して、自然保護には厳格な法

や、裏付となる学問も必要だが、幅広い教育をおして、小さいと

きから自然保護を基盤とした新しい自然観が身につくように、子供を育成することが大切であると、改めて思い知らされました。

しかし、ただ一つのぬきがたい決定的ともいえる問題が残つて、いまでも苦悩しています。それは「人間の知恵とは何か」という問題です。

今日、各方面から自然保護が強く叫ばれているそのわりには、国民の意識や行動が利己的な範囲から抜けず、絶えることのない人間の知恵が、飽きることのない私欲のためのものでしかないと思われるからです。

人間は他の生物にくらべて、いつも他の所有量を比較し、無駄をしてまで必要以上に物をほしがります。たとえば都会生活者は、一時の憩いの場を自然に求めるのはよいのですが、つぎつぎと自然を破壊し都市化しては、愚かにも人間回復をする憩いの場を失っています。

人間の知恵とはなにか



石野道男

込まないで

ほしい」と

いう話が評判

になったとい

いいます。公書と

自然保護と

は問題を別

にして考え

るべきで混

乱させては

いけません

が、北海道

以外に住む

のVとしてはなりません。

子供の教育に直接仕事をする者にとつ

て、大人が私欲の自制を知恵の敗北だと思

うかのように、自然や環境をほしのままに

破壊し、法は知恵でぐぐり抜け、自然保護

は利己範囲をこえないことを恥じなければ

なりません。

大人がおこしている交通戦争に、子供た

ちは本来勉まべき内容のほかに交通安全教

育をさせられています。このように大人が

責任をおうべきことを、つぎつぎに「子供

のために」と教育の場にもち込まれるので

は、教育の本質は蚕食されてしまいます。

//自然保護はどうあるべきか//という問

題を考え、実行しうる人間を育てるための

教育は交通事故から身をまもる教育とは次

限の差があり、今後人類が生きてゆく限り

教育の本質となるでしょうが、それにして

も大人は、子供たちが今後大人の破壊して

しまった自然でしか生きなければならぬ

ことに思いをいたし、人間の知恵が利己的

範囲でしか意識や行動ができないのでは、

自然保護は達成されたいでしょう。

(神奈川県立教育センター)